

宮造営前にその造営が進行していた紀寺については、別表の F に示したように、伽藍中軸線は、条坊地割と無関係な位置にあることが明らかである。また、紀寺南門前で検出された東西溝の位置も、八条大路北側溝推定位置から約 7.5 m 南に寄っている。紀寺は藤原京条坊施行後も、その寺域や伽藍配置を大きく変えることなく存続しており、紀寺の寺地と条坊地割の施工との関連という点についてなお問題を残している。

川 原 寺 の 調 査

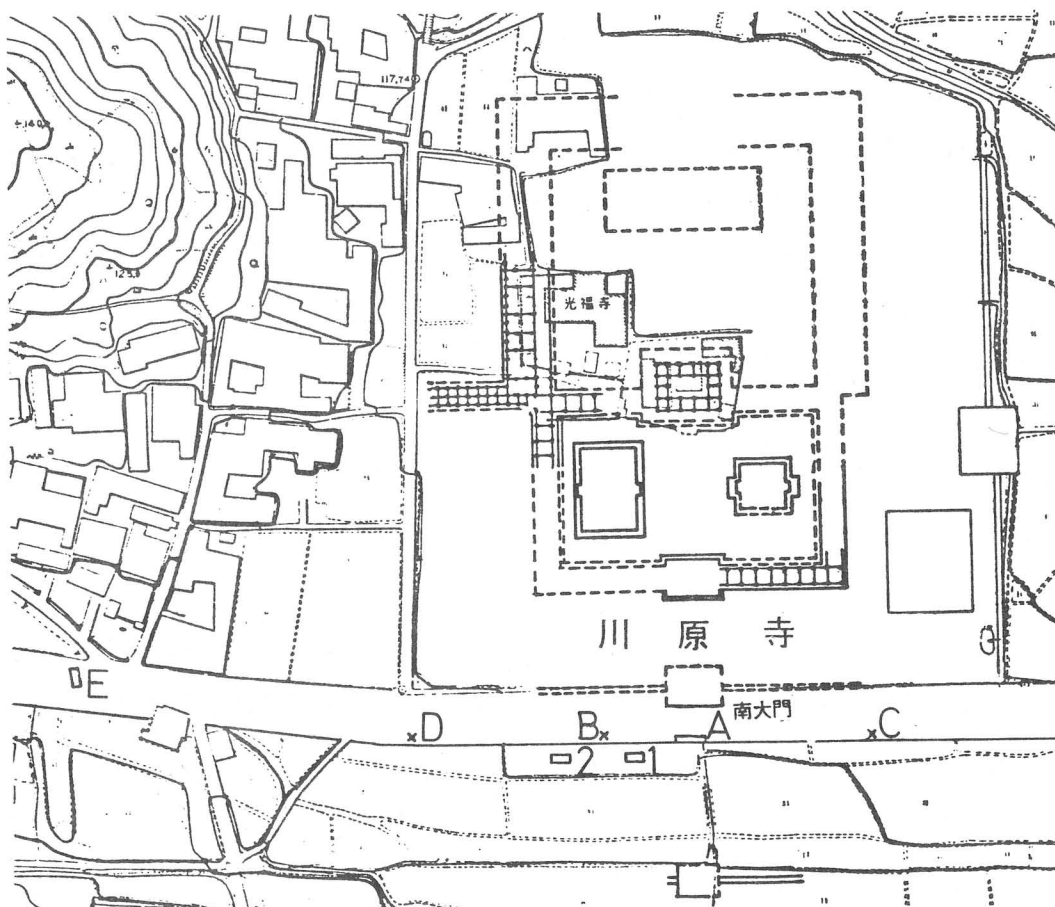
(昭和 51 年 1 月)

川原寺跡を東西に横断する県道に敷設される県営水道管埋設工事および、県道に南接して設けられる明日香村による降車場造成に関連して実施した事前調査である。

水道管埋設工事に関連する調査では、昭和 32 年の第 1 次調査で確認した南大門前の玉石敷の参道と、これに直交する東西溝南肩の玉石列を再検出した (A 地点)。B 地点では、石積みの井戸と思われる遺構を検出した。石積みは玉石を約 4 段積み重ねているが、大部分は調査地外にあり、全貌は明らかでない。

この他、C・D 地点から礎石状の花崗岩 2 個を発見したが、いずれも造り出しなどの加工は見られず、出土状態からみると旧位置を保つものではないことが判明した。また、寺域外の E 地点で石組みの東西溝を検出した。側壁は 0.5 ～ 1 m 大の玉石を 3 段に積んだもので、幅約 0.9 m、深さ約 1 m を測る大規模なものである。溝を埋める砂層の状態からみて、相当の流水があったと考えられる。溝内から 7 世紀代の土師器、須恵器などが出土した。この溝は、あるいは川原寺下層で検出している暗渠に関連する遺構とも考えられる。

なお、この石組み溝と南大門参道の遺構は、工法変更によって保存されることになった。



川原寺調査地点位置図

降車場予定地に設けたトレンチからは、花崗岩礎石1個を検出した。礎石は地山を掘りこんだ掘形に根石を置いて据えており、旧位置を保っている。礎石上面は平らで、造り出しなどはみられない。礎石の周辺からは多量の瓦が出土し、瓦葺きの礎石建物の存在することを示している。この礎石の掘形および前述の井戸状遺構の掘形には、いずれも瓦片が混入していることから、創建時まで遡る遺構ではないと考えられる。

今回の調査によって、従来空白地とされていた寺域南端に、建物などの存在が確認された。これらの遺構の性格については、今後の調査に委ねられる。